

● 第23回多摩市自治推進委員会

平成20年10月9日 18:30~21:00

多摩市役所 特別会議室

出席者： 檜垣正巳委員長 江尻京子副委員長 伊藤雅子委員 大木貞嗣委員 白鳥光洋委員

事務局： 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

・市民参画白書について

今後の予定

・第24回 10月23日(木) 18:30~

事務局 本日は、市民参画白書について審議していただくが、その前に多摩市で現在PRの検討をしている、ふるさと納税について委員の皆様からご意見いただきたい。多摩市では全面的に取り組む予定であり、市長よりPRについて市民の代表である自治推進委員会の皆さんからご意見をいただきたいとのこと。担当の企画調整担当課長が内容についてご説明する。

企画調整 多摩市でもふるさと納税をPRしていこうということになり、ホームページに掲載するため原稿をつくった。多摩市に応援をということで、はじめに多摩市について簡潔な説明をし、次に住民税税額控除の説明をしている。4万円寄附すると3万5千円返ってくると。多摩市にふるさと納税で応援していただくため全国の皆さんに呼びかけをしたい。寄付金の使途を多摩市が設けた選択肢から選ぶことが出来る。また、詐欺行為の注意喚起をしている。電話では呼びかけない。制度自体がわかりにくいところがある。表現等工夫があれば言っていきたい。

委員 たま広報に載せることは考えているか。

事務局 まずホームページに掲載する。

委員 議会に条例案を提出するのか。

企画調整 国の制度なので条例は必要ない。

委員 掲載予定は。

企画調整 11月1日が市政記念日なのでその日にホームページに載せたい。

委員 多摩市と同じような規模の区市町村で先行しているところがあるか。実績は把握しているか。

企画調整 はじまったばかりなので実績は把握していない。

委員 寄付申請書に情報の公表に関する同意があるが、名前がホームページにのるのか。

企画調整 そのとおり。

委員 金額は出るか。

企画調整 出ない。

委員 法人は対象か。

企画調整 個人のみ。多摩市は地方から出てきている人が多いので、PRすると税金が出て行く恐れもあるが、多摩市に愛着を持っている人も居ると思う。

事務局 宣伝方法などもご意見をいただけたらと思う。寄附でも使途を規定できるので、市民協働に使ってもらおうようにするなどのご意見もいただきたい。

委員 使途を決められるのはいいこと。特定の指定なしの場合は、どうなるか。

企画調整 下に自由記入欄に書いていただくこともできる。

委員 枠を設けるのなら、「その他」にした方がよい。選択肢の一つ、安心・安全のまちというのは具体

性がないと思う。具体的な文言を考える必要がある。災害の安否確認など。

委員 市の行政にお金の部分で参画していくということで良いこと。市民は具体的な事例に対して税金を市に使って欲しいと思っている。これはセールスなのでセールスマンをおく必要がある。寄附した方のお名前は見えやすい場所に公示する必要があるのでは。欧米では建物などに寄付者の名前がある。駅のような半公共的なところがあると、子どもや知り合いに教えることができる。市の庁舎には足をあまり向けないので、そのような半公共的なところの方が良い。市民にとっても誇りになると思う。

委員 賛成。100円ショップにあるようなレンガに名前をのせて並べていくとか、名前入りのベンチを置いたりとか、何かが残るとするのは良いこと。

委員 多摩市は体育館を大改造すると聞いているが、それに使用してくれということもある。個人の方も具体的なイメージを描けると思う。

委員 寄附申請書には、団体名代表者のための申し込み欄があるが。

企画調整 個人による控除になる。

委員 ふるさと納税は、多摩市にとっては難しいと思う。多摩から出て行った方が対象になるが、寄附したほうが得なのか。

企画調整 市民が寄附するのは5000円の足切があるため損になる。

委員 寄附したものが何に使用しているということを示さないといけないと思う。用途を具体的に何か絞ったほうが良い。ターゲットは多摩市から出て行った人で、税金の一部を多摩市に寄附してくれませんかということになるのでは。

委員 ふるさと納税は、多摩市の要綱がないと受けられないのか。

企画調整 国の制度なので必要ない。PRのみとする。従来は10万円の足切だったが、現在は5000円なので幅広く寄附をしていただくことができる。

委員 多摩ニュータウンの場合、出ていった人は多摩市に関心がないと思う。用途を緑とか、子育てなど二つに絞ったほうが良いと思う。

委員 年度ごとに用途を変えるのも良いのでは。原案の選択肢では大雑把過ぎる。

委員 何万円以上寄附した人には、市ゆかりのものをプレゼントするというのがあれば良い。

委員 福祉だとかは500万円以上なら表彰される。同様に一定額以上は表彰するというにすれば。

委員 PRを本格的にすれば、多摩市は財政的に厳しいと市民が認識するのでは。

委員 地方の自治体にはセールスマンがいる。

委員 税金の用途に関心をもつようになるのは良いこと。ターゲットを絞ったほうが良い。

事務局 口も出すけど金も出すというのもひとつのあるべき姿と思う。

委員 多摩市にはふるさと納税をやってもらいたいという強い思いがあるのか。

事務局 ある。多摩市も財政的に苦しい。

委員 市民の協働がテーマなら団体から具体的なテーマを募って寄附するというのも良い。

委員 寄付した人の名が残し、PRは、多摩市を出た人にターゲットを絞るとするのが良いと思う。

事務局 知恵を絞って工夫したい。

委員 多摩市の出身でなくても多摩市に寄附することはできるのか。

事務局 可能。

委員 ふるさと納税とは関係ないが法人から大口の寄附を受けることが良いのだが。

- 委員 市民が多摩市は財政的に大変だという認識が持てれば良いと思う。
- 委員 続いて市民参画白書の審議に入る。白書はかなりまとまってきており、読みあわせをする必要があるが、内容で意見はあるか。
- 委員 「審議会に市民が参加しやすくするためには審議方法、開催時間、開催場所などに配慮して、誰でも気軽に参加できるようにする」という箇所があるが、審議会はそもそもだれでも気軽に参加できるものなのか。応募が少ないという現実があるわけだが、それでもだれでも気軽に参加できるものではないと思う。
- 委員 応募者数について触れている箇所では、「審議会委員になろうとする市民は多くありませんが、審議会が難しいと思われるからでしょうか。」としている。
- 委員 市役所に審議会の委員を募集しているかどうかを聞ける人と聞けない人がいる。「気軽に」をとればどうか。
- 委員 では、「気軽に」をとる。どういう目的の審議会であれ一度入れれば審議内容について勉強しなければならぬので、一回限りでおしまいにするのはもったいない。審議会の委員に特定の人ばかりに集中するのももったいない。公募委員は素人ということではない。審議目的の専門知識があるかどうかは別だが、何らかの知識はあると思う。
- 委員 最終的には委員になる人による。最初は何も知らなくても勉強を一生懸命する人もいれば、最初から最後まで文句を言う人がいる。
- 委員 広く浅く誰でも参加というのは矛盾があると思う。
- 委員 意欲がある人で積極的に参加できるようにできれば。
- 委員 審議会だけでなくワークショップなども同じ。市民も言いつばなしではなくまとめる意識を持たないと。
- 委員 自治意識のところ選挙に触れている箇所があるが、ここには違和感がある。
- 委員 政治に参加するというのは直接的なものであるため入れた方が良いと思う。
- 委員 「自治意識を示す指標のひとつに」というところに違和感がある。投票率イコール自治意識ではないと思う。
- 委員 「自治」をとり、「市民の」を加え、「(4)選挙に見る市民の意識」、本文中を「市民の意識を示す指標のひとつに」とする。
- 委員 市民協働事例集を参考にして原稿を書いているが、平成19年はそれ以前のと違い、実行委員会など違う項目ができています。共催はキーワードと思ったが、項目の分け方が変わっている。今までは共催だったけど委託になったものなどの整理がまだ終わっていない。整理が出来れば行政の具体的な考えが見えると思う。
- 委員 ファミサポの記述のところがあるが載せても良いか。
- 委員 別のページにも載せている。
- 事務局 ファミサポは市の事業なので類推されるので、これについては問題ないとする。
- 委員 白書の最後の部分か、またはどこかの部分に自治推進委員会の役割を入れたほうが良いと思う。いれないと他人事のようになると思う。
- 委員 「はじめに」のところ自治推進委員会についての説明がある。この文章を受けて具体的に進めていくということになると思うが。
- 委員 この部分は、載せるか載せないか宿題としたい。今期の活動としてはこのようなことをやっているが、本来何をやるべきかわからない。

- 委員 白書を終わるにあたって、こういう観点で自治推進委員会の審議をやってきたということ載せるというのは。
- 事務局 自治推進委員会の第1期から現在の第2期に対するご提案をいただいているが、これを白書に載せるか別にものに載せるかの議論はあると思う。
- 委員 自治推進委員会で、活動団体と会う機会を作りたい。
- 委員 自治推進委員会の第1期の人とか。
- 委員 他の委員会の方とか。
- 事務局 市民活動情報センターとかには協働関係で何かあると思う。
- 委員 市民で活動している団体とかに会う機会があっても良いと思う。
- 委員 賛成。新年の集いということで、白書を30分ほど説明して後は懇親会ということも良いのでは。
- 委員 団体同士の横のつながりが薄いと思った。
- 事務局 過去の議会の質問でも委員会が縦割りだという指摘をうけた。市民活動情報センター運営委員会の所掌事務に関係機関、関係団体等との連携ネットワーク構築が規定されている。
- 委員 報告会や出版記念という形でやっても良いと思う。
- 委員 自治推進委員会を今後やっていく中で他団体の意見を取り上げるという趣旨で。
- 委員 意見交換も団体を背負わないような形でやらないといけない。
- 委員 白書を作成していくと自治基本条例も良いところと悪いところがあるのがわかる。そろそろ見直しても良いと思う。
- 事務局 現在、総合計画に着手しており、10月に広報でも周知する。計画は平成23年度からのものだが、また、総合計画策定審議会を設置する。15人の委員で構成する。今、審議会への情報提供のための材料集めとしてフィールドワークを進めている。そういった分野についても出来れば自治推進委員会からご提案をいただけたらと思う。
- 委員 役所は複雑で印刷物もいろいろある。審議会も横のつながりがない。
- 委員 庁内で課長会議があると思うが、重なっている業務でこれはやめようという話が出るのか。
- 事務局 各事業は市民サービスに直結しているものが多いため、単純にやめるということはなかなか難しい。
- 委員 事業を切るのが難しいのであれば市民に任せることが必要。
- 事務局 単純な委託ではなく民営化ができないかなどの観点からも検討している。
- 委員 多摩市単独ではなく他市との連携も必要。
- 委員 広域連携。
- 事務局 非常に大事だが、誰がリーダーシップを取るのかという問題がある。理念をもったリーダーが必要。
- 委員 次回は白書の読みあわせをする。次回は10月23日、次々回は11月11日。その次は11月27日。

以上